XV　　健康行動と健康状態

1　過去 1 年間の医療機関の未受診

世帯内の個人（18 歳以上）に対して個人票問 5 主問において、「あなたは、過去 1 年間に、病院や診療所での受診や治療が必要と思われるほどの病気やけがをしましたか。」と質問している。その上で、(病気やけがを)「した」と回答した者に対して、付問において「その際、実際に病院や診療所を受診し、治療を受けましたか」と質問している。これに対する回答は、「1　つねに受診・治療をした」と「2　受診・治療をしなかったことがある」の二つの選択肢から一つを選ぶ形となっている。

調査回答者全体の 15,929 人中の 7,316 人（45.9%）が受診や治療が必要と思われる病気やけがをしたと回答している（図表 XV -1 ）。

図表 XV-1　過去 1 年間の病気やケガの有無

(1)過去1年間の受診・治療が必要な病気やケガの有無	した	しなかった	無回答	合計
人数（人）	7,316	8,356	257	15,929
比率（%）	45.9	52.5	1.6	100.0

注：個人票により作成している。

この病気やけがをした 7,316 人のうち、必要な医療機関の受診、治療をしなかったことがあるとしているのは、850 人であるが、これが調査回答者数に対してどの程度の割合であるかを示したのが図表 XV-2 である。今回調査の回答者 15,929 人に占める、受診や治療が必要と思われる病気やけがをした際に実際に必要な受診、治療をしなかった者（850 人）の割合は 5.3%と推計される。

図表 XV-2　病院・診療所の受診、治療の有無

(2)病院・診療所の受診、治療の有無	つねに受診・治療をした	受診・治療をしなかったことがある	不詳	非該当	無回答	合計
人数（人）	6,432	850	257	8,356	34	15,929
比率（%）	40.4	5.3	1.6	52.5	0.2	100.0

注）個人票により集計している。

この「過去 1 年間に医療機関の受診、治療が必要な病気やケガをした者のうち、受診・治療をしなかったことがある者」の割合を前回調査結果と比較して示したのが図表 XV-3 である。受診や治療が必要と思われる病気やけがをした際に実際に必要な受診、治療をしなかっ

た者は前回調査よりも 2.0%ポイント増加していた。

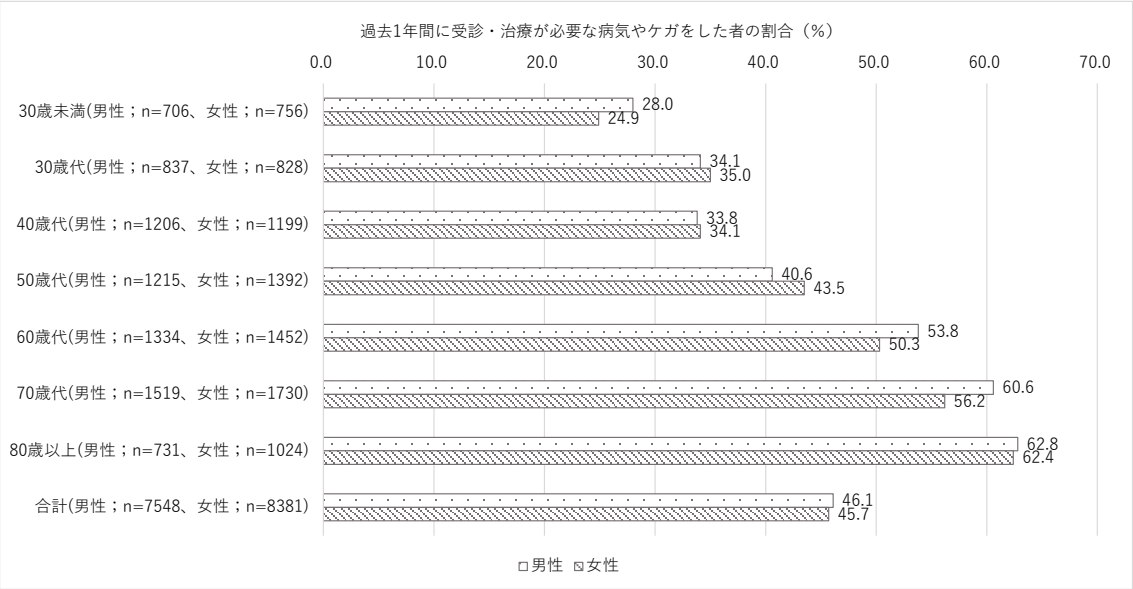
図表 XV-3　受診や治療が必要と思われる病気やけがをした際に
実際に必要な受診、治療をしなかった者の割合（%）

	今回（2022年）			前回（2017年）		
過去1年間に受診・治療が必要な病気やケガをした者	人数（人）	比率（%）	比率の分母（人）	人数（人）	比率（%）	比率の分母（人）
	7,316	45.9	15,929	9,389	47.4	19,800
過去1年間の病気やケガをした際に受診・治療をしなかったことがある者	人数	比率（%）	比率の分母（人）	人数	比率（%）	比率の分母（人）
	850	5.3	15,929	662	3.3	19,800

注）個人票により集計している。不詳・非該当・無回答を含む。

性・年齢階級別に過去 1 年間の受診や治療が必要と思われる病気やケガをした者の割合を見たのが図表 XV－4 である。年齢が高くなるほど過去 1 年間に受診や治療が必要と思われる病気やケガをする割合が高くなるのがわかる。また、30 歳代～50 歳代を除いて男性の方が女性よりもその割合が高いこともわかる。

図表 XV-4　性・年齢階級別過去 1 年間の受診や治療が必要と思われる
病気やケガをした者の割合（%）

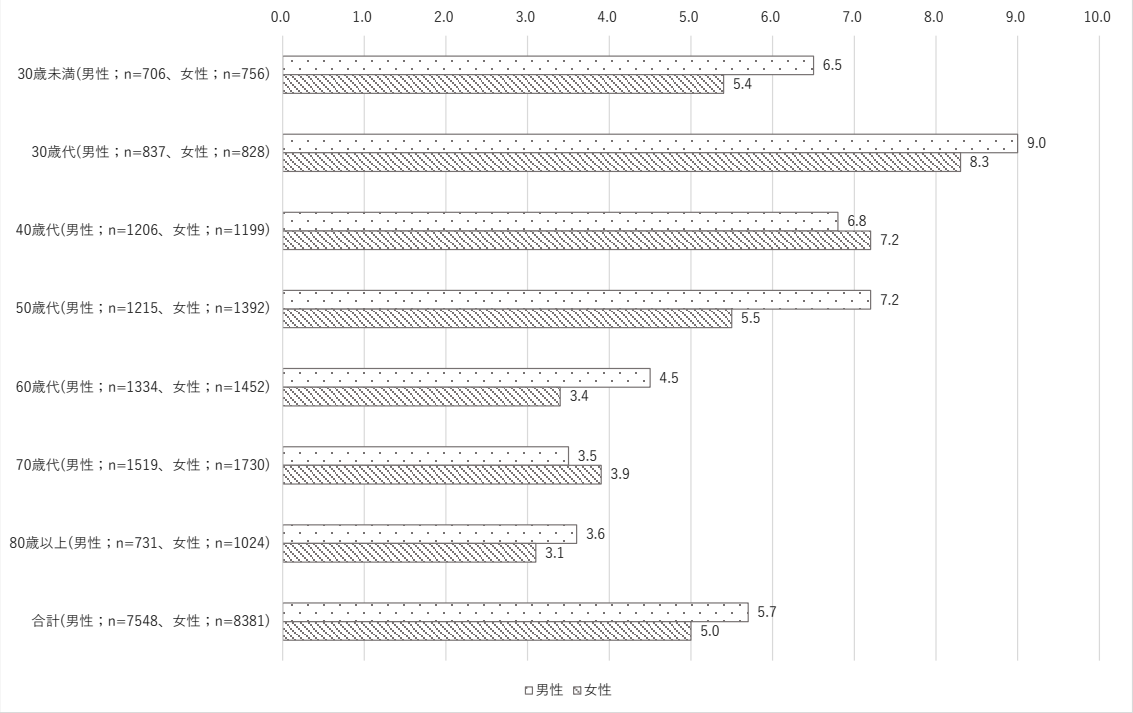


注）個人票により集計している。分母に無回答を含む。

必要な医療機関の受診、治療をしなかったことがあるとしている者について性・年齢階級別に調査回答者数に対する割合を見ているのが図表 XV-5 である。30 歳代においてその割

合が最も大きく男性で 9. 0%、女性で 8.3%であった。それよりも高い年齢層ではその割合は小さくなっていく。

図表 XV-5　性・年齢階級別受診や治療が必要と思われる病気やけがをした際に実際に必要な受診、治療をしなかった者の割合（%）

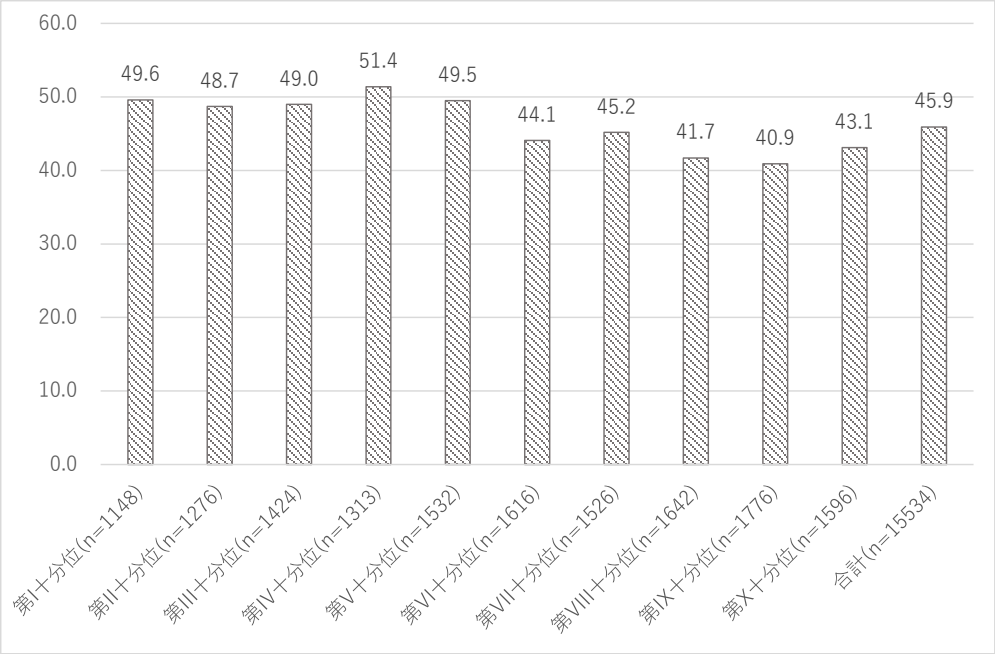


注）個人票により集計している。分母に不詳・非該当・無回答を含む。

世帯票と個人票を連結した上で、等価可処分所得階級別に過去 1 年間の病気やケガをした者の割合を見たのが図表 XV-6 である。等価可処分所得階級第Ⅰ十分位から第Ⅴ十分位までは 50%前後であるが、それよりも上の所得階級ではそれよりも低く、約 40%～45%の水準となっていた。

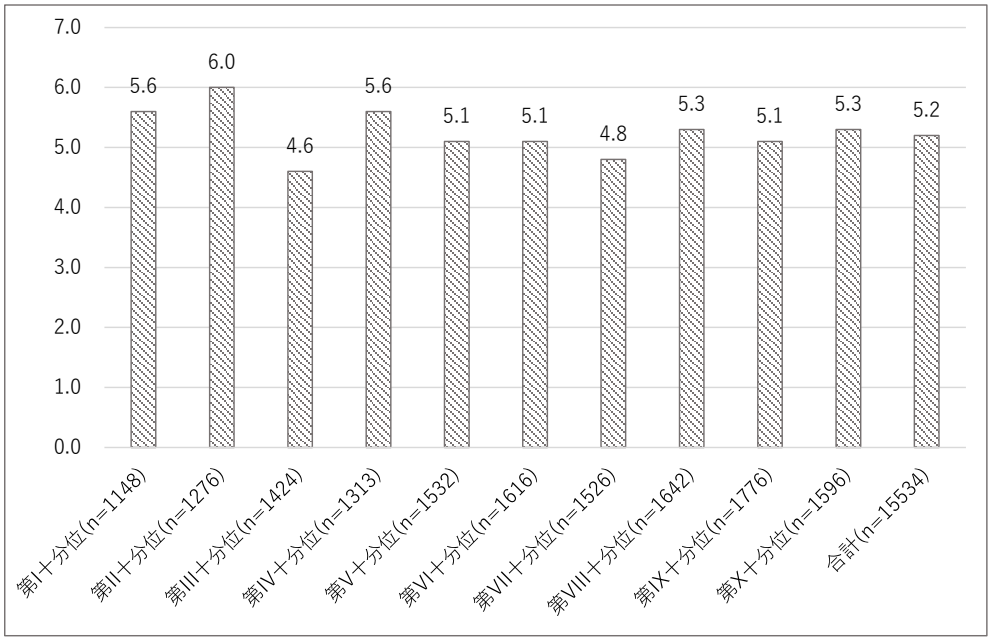
同様にして、等価可処分所得階級別に受診や治療が必要と思われる病気やけがをした際に実際に必要な受診、治療をしなかった者の、調査回答者数に対する割合を算出したのが図表 XV-7 である。第Ⅱ十分位において 6.0%、第Ⅰ十分位、第Ⅳ十分位において 5.6%となっているが、他の所得階級でも 5%を超える水準となっていることも多く、所得階級間で大きな差があるとは言えない。

図表 XV-6　等価可処分所得階級別過去 1 年間の病気やケガをした者の割合（%）



注）世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含む。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

図表 XV-7　等価可処分所得階級別受診や治療が必要と思われる病気やけがをした際に実際に必要な受診、治療をしなかった者の割合（%）



注）世帯票及び個人票により集計している。分母に不詳・非該当・無回答を含む。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

２　過去 1 年間の健康診断の未受診

個人票問 6 においては、過去 1 年間の健康診断の受診経験について尋ねている。男女合計では、健康診断を受診しなかった者の割合は 31.3%、男性計では 28.1%、女性計では 34.2%であった（図表 XV-8）。男女計では 1.6%ポイントだけ前回 2017 年調査時点の未受診率よりも上回っている結果となった。

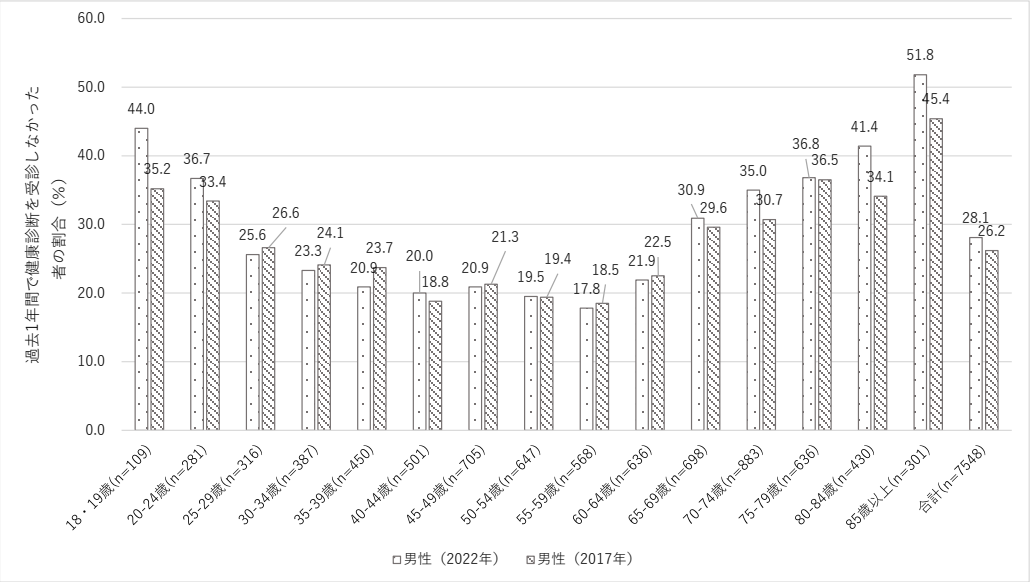
図表 XV-8　健康診断未受診率（%）

	受診した	受診しなかった	無回答	合計	未受診率（%）	前回未受診率（%）
男女計	10,712	4,986	231	15,929	31.3	29.7
男性	5,325	2,122	101	7,548	28.1	26.2
女性	5,387	2,864	130	8,381	34.2	32.8

注）個人票により集計している。

年齢階級別に見ると、健康診断未受診率が前回調査の数値よりも高くなっているようにも見えるが、サンプルサイズや差の大きさを考慮すると、70-74 歳（35.0%：2022 年、30.7%：2017 年）、80-84 歳（41.4%：2022 年、34.1%：2017 年）、85 歳以上（51.8%：2022 年、45.4%：2017 年）など限られた年齢階級でのみ前回調査と比較して未受診率が高かったと言えよう（図表 XV-9）。

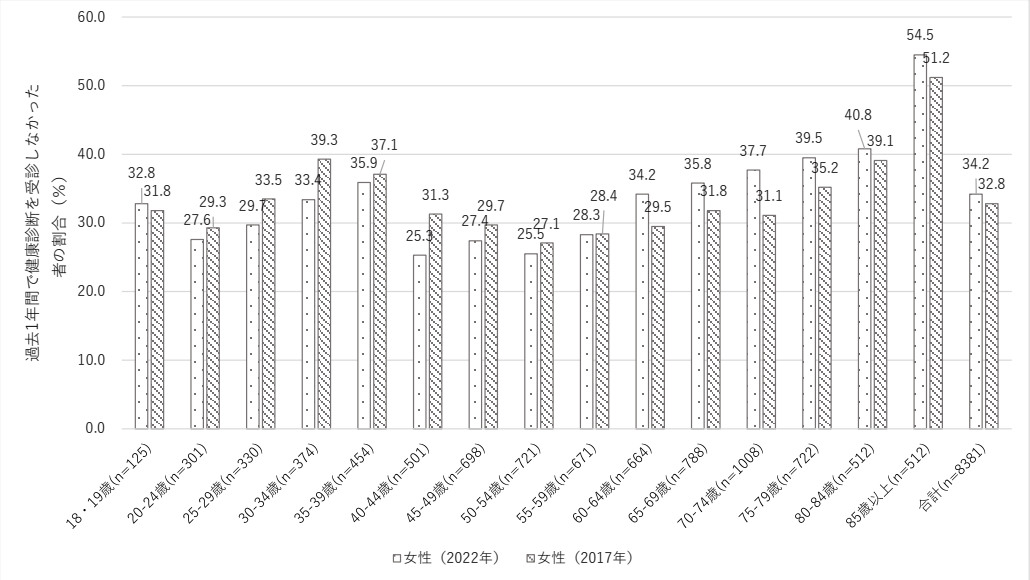
図表 XV-9　年齢階級別健康診断未受診率（男性；%）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含む。年齢階級ごとの n は 2022 年調査におけるサンプルサイズである。

女性もほぼ同様に 60-64 歳階級及び 70-74 歳階級など限られた年齢層において、健康診断未受診率が前回調査よりも高かった（図表 XV-10）。

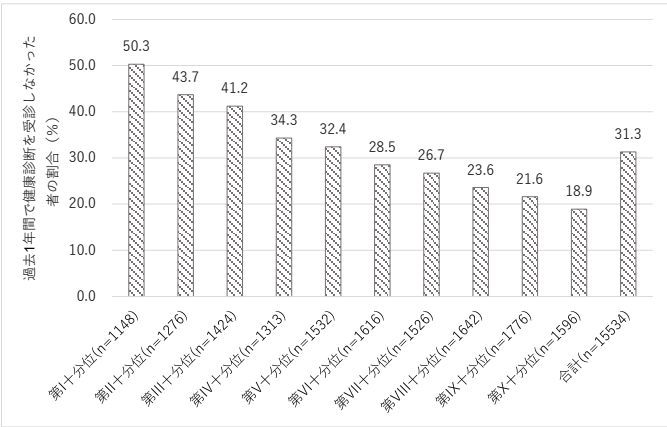
図表 XV-10　年齢階級別健康診断未受診率（女性；%）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含む。年齢階級ごとの n は 2022 年調査におけるサンプルサイズである。

図表 XV-11 は等価可処分所得階級別の健康診断未受診率である。等価可処分所得階級第Ⅰ十分位では受診していない割合が 50.3%に達している。等価可処分所得が高くなるほど未受診率は低下し、第Ⅹ十分位では 18.9%であった。

図表 XV-11　所得階級別健康診断未受診率（%）



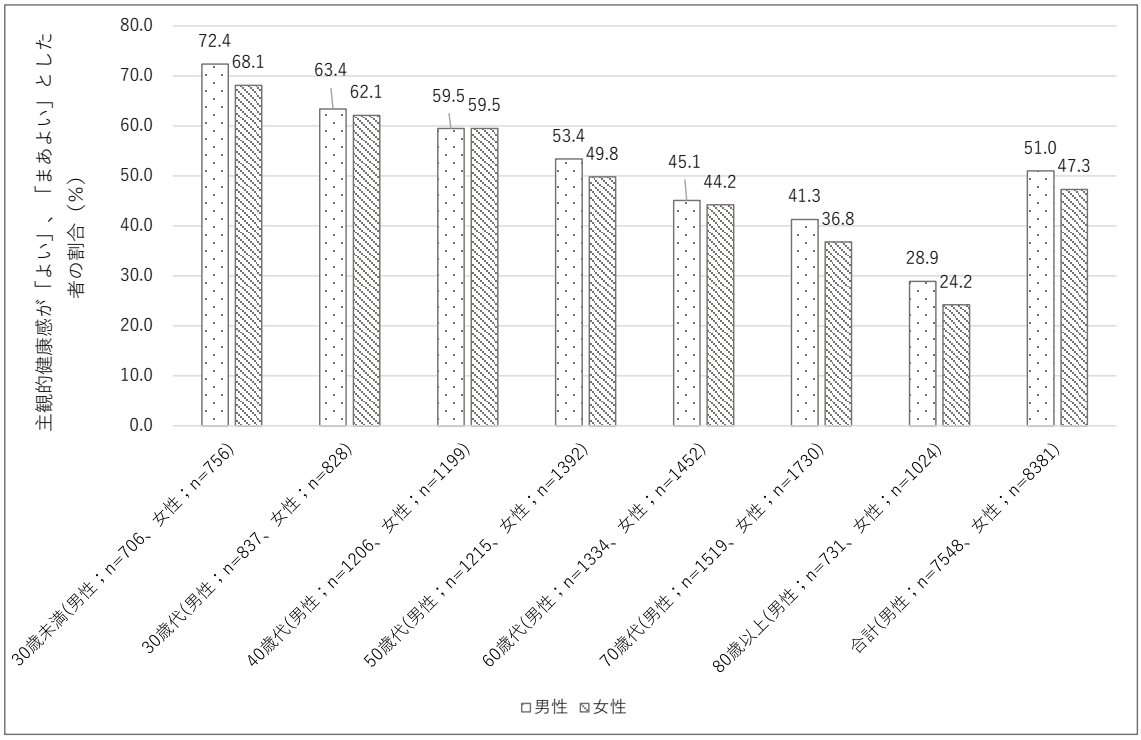
注）世帯票及び個人票により集計している。分母に不詳・非該当・無回答を含む。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

３　幾つかの指標に見る健康状態

(1)　主観的健康感

個人票問１において現在の健康状態をよい、まあよい、ふつう、あまりよくない、よくないの 5 段階にて質問している。これに対して「よい」ないしは「まあよい」とした割合を性・年齢階級別に示したのが図表 XV-12 である。男性全体で 51.0%、女性全体で 47.3%の者が「よい」ないしは「まあよい」としていた。年齢階級別に見ると、男女ともに 30 歳未満において、「よい」ないしは「まあよい」とした割合が最も大きく、男性は 72.4%、女性は 68.1%であった。年齢が高まるほどその割合は低下し、80 歳以上では男性では 28.9%、女性は 24.2%であった。

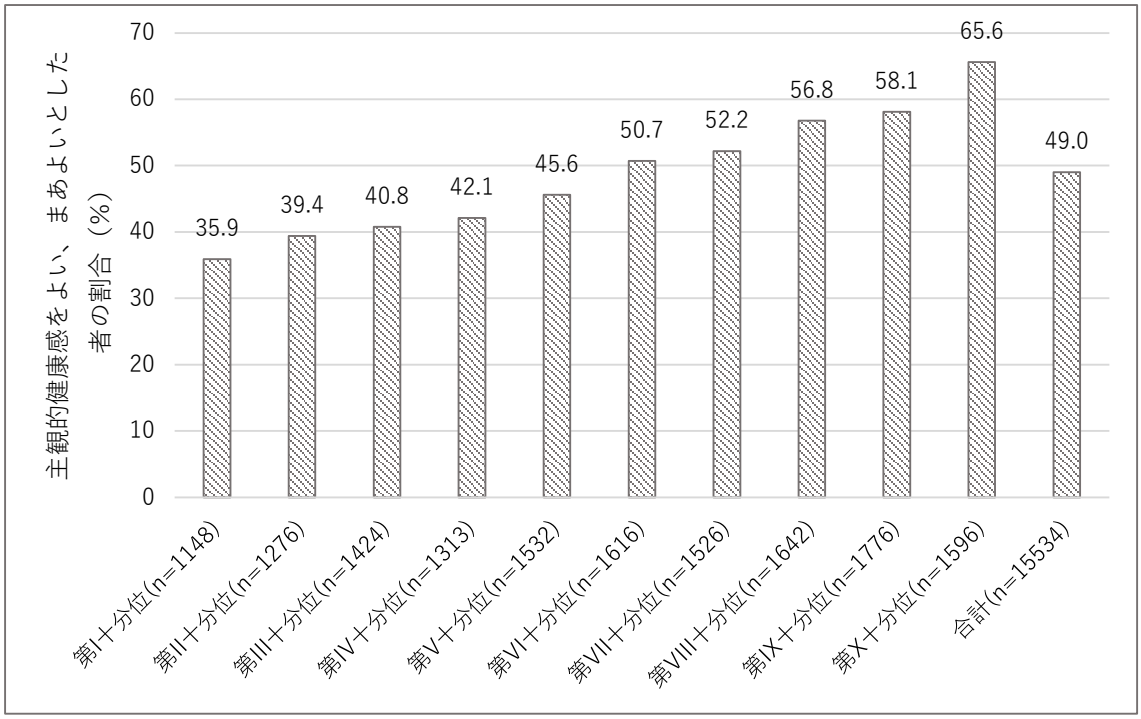
図表 XV-12　性・年齢階級別主観的健康感を「よい」・「まあよい」と回答した者の割合（%）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含む。

所得階級別に「よい」ないしは「まあよい」とした割合を示したのが図表 XV-13 である。第Ⅰ十分位では「よい」ないしは「まあよい」とした割合は 35.9%であったが、所得が高くなるほど一貫してその割合は高く、第Ⅹ十分位においては 65.6%となっていた。

図表 XV-13　所得階級別主観的健康感を「よい」・「まあよい」と
回答した者の割合（%）



注）世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含む。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

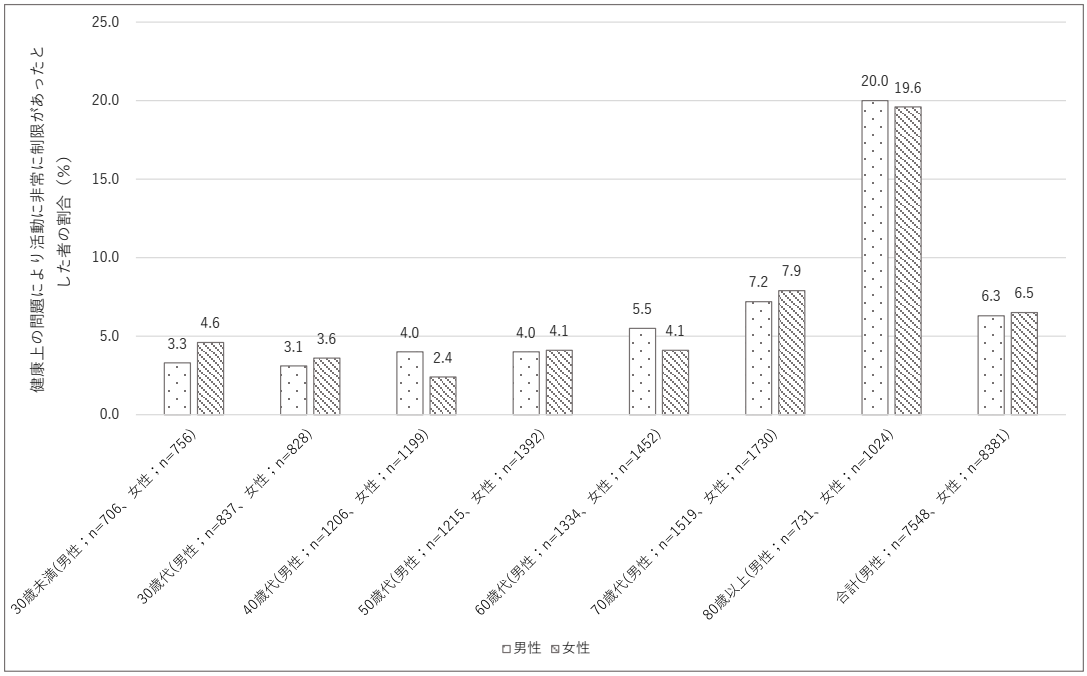
(2)　健康上の問題による活動制限

個人票問 2 では「あなたには、過去 6 か月以上にわたって、周りの人が通常おこなっているような活動について、あなた自身の健康上の問題による制限がありましたか」と質問している。回答の選択肢は「1　非常に制限があった」、「2　制限はあったがひどくはなかった」、「3　まったく制限はなかった」の 3 つである。この問 2 に対して、非常に制限があったと回答した者の割合を性・年齢階級別に見たのが図表 XV-14 である。

非常に制限があったと回答しているのは、男性合計では 6.3%、女性合計では 6.5%であった。30 歳未満から 60 歳代までは男女ともに 6%を下回っていた。70 歳代では男性では 7.2%、女性では 7.9%とそれぞれ平均値を超え、80 歳以上では男性は 20.0%、女性は 19.6%と相対的に高い水準となっていた。

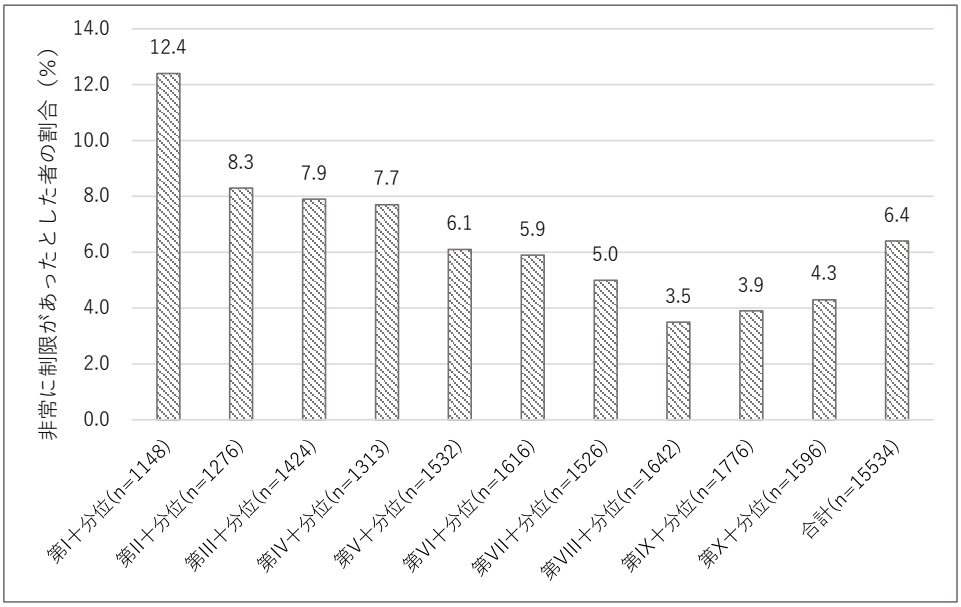
同様にして、非常に制限があったと回答した者の割合を等価可処分所得階級別に見たのが図表 XV-15 である。最も低い等価可処分所得階層である所得第 I 十分位においては、12.4%が健康上の問題により非常に制限があったと回答していた。第 II 十分位から第IV十分位までは約 8%前後、第 V 十分位と第VI十分位では約 6%前後、第VII十分位以降では 5.0%ないしはそれよりも低い水準と、世帯の等価可処分所得が高いほど非常に制限があったと回答した者の割合が低かった。

図表 XV-14　性・年齢階級別健康上の問題により非常に制限があったと回答した者の割合（%）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含む。

XV-15　等価可処分所得階級別健康上の問題により非常に制限があったと回答した者の割合（%）



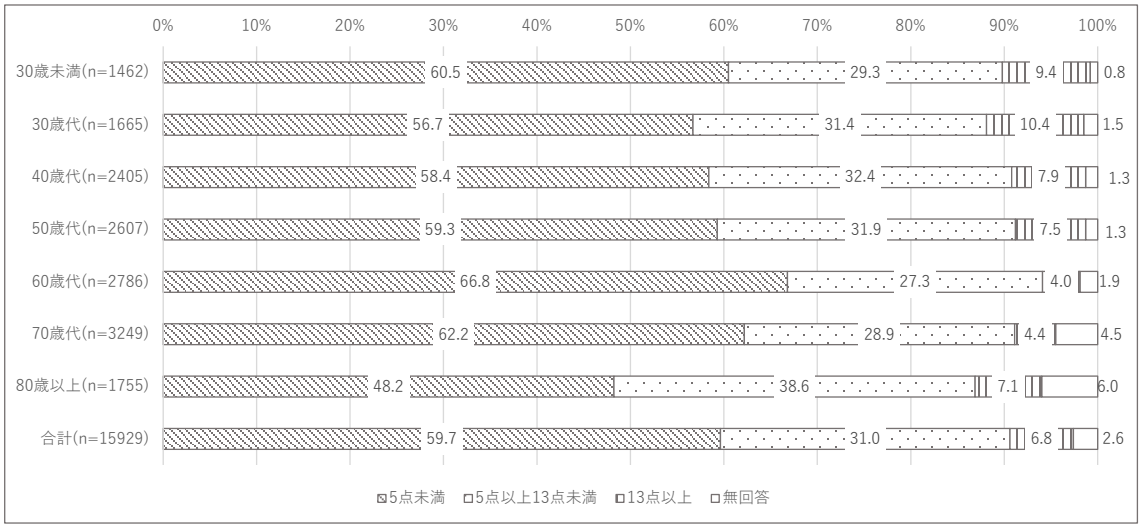
注）世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含む。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。

(3)　こころの健康

個人票問 4 ではこころの健康状態について、それぞれ 5 つの選択肢から構成される 6 つの設問によって質問している。6 項目は「神経過敏に感じましたか」、「絶望的だと感じましたか」、「そわそわ落ち着かなく感じましたか」、「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」、「何をするのも骨折りだと感じましたか」、「自分は価値のない人間だと感じましたか」である。これらの質問項目それぞれについて共通の 5 つの選択肢；「いつも」、「たいてい」、「ときどき」、「少しだけ」「まったくない」が与えられている。回答者は各項目の質問それぞれについて 5 選択肢のうちのひとつを選んで回答する。

回答結果については、「いつも」を 4 点、各選択肢について 1 点刻みで評価し、「まったくない」を 0 点とする。6 項目あるため、この設問を完答している各回答者は最大で 24 点、最小で 0 点を与えられることとなる。この点数は点数が大きいほどこころの健康状態が悪いものとして評価される。ここでは、5 点、13 点という値をこころの健康状態を評価する区切りの点数（閾値）として使用する。本調査結果において、その閾値を用いて年齢階級別にこころの健康状態について見たのが図表 XV-16 である。点数が 5 点未満であるものは 30 歳未満～70 歳代までは 6 割前後であるが、80 歳以上では 48.2%と半数を割り込む。5 点以上 13 点未満の者の割合は 70 歳代以下では 30%前後であるが、80 歳以上では 38.6%となる。13 点以上の者は 30 歳未満、30 歳代では 10%前後であるが、それ以上の年齢では年齢が高くなるほどその割合は低下する。80 歳以上では 7.1%とやや高くなっていた。

図表 XV-16　年齢階級別こころの健康状態別の人数割合（%；男女計）

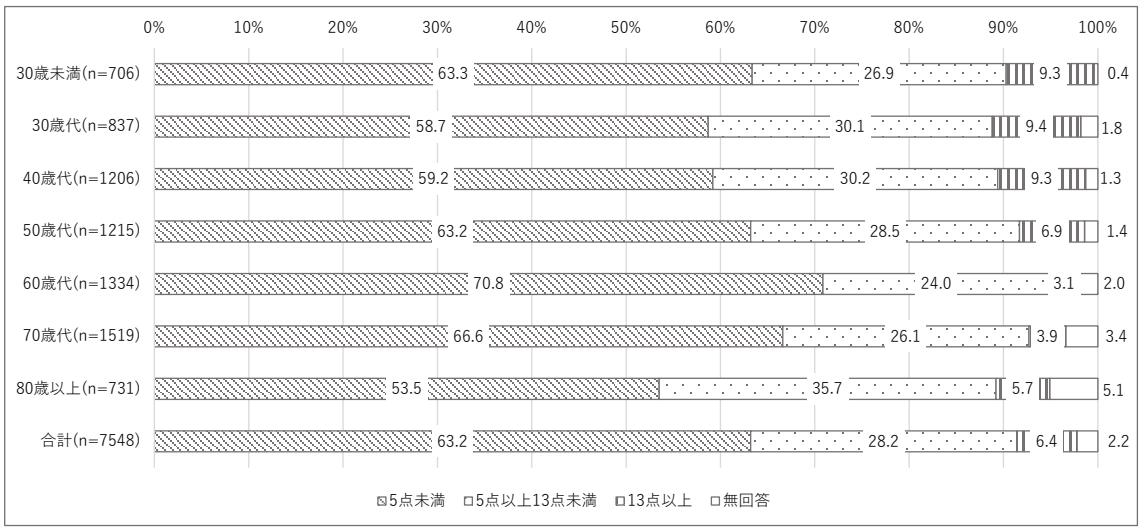


注）個人票により集計している。分母に無回答を含む。

男性について年齢階級別にこころの健康状態について見たのが図表 XV-17 である。各年齢階級において、男女計よりも点数が 5 点未満である者の割合が相対的に大きかった。他方で、5 点以上 13 点未満の者の割合は各年齢階級で男女計よりも低く、かつ、13 点以上の

者の割合も 40 歳代を除けば低かった。この結果、各年齢階級において基本的には男性の方が女性よりも相対的にこころの健康状態が良い状態であった。

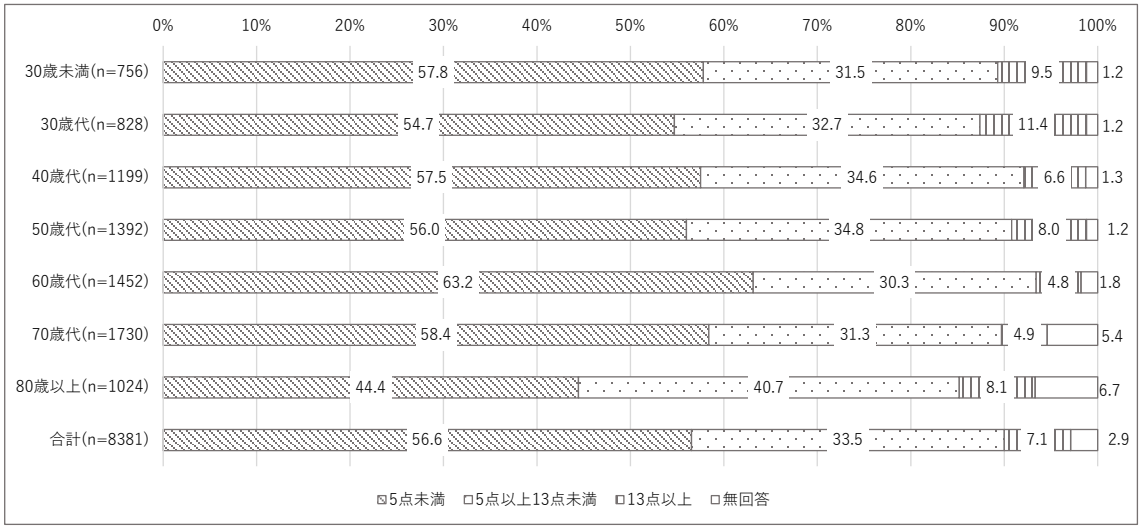
図表 XV-17　年齢階級別こころの健康状態別の人数割合（％；男性）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含む。

女性について年齢階級別にこころの健康状態を見たのが図表 XV-18 である。男性よりも 5 点未満の者の割合が少ないが、60 歳代で 5 点未満の者の割合が最も大きくなるのは男性と共通であり、それより年齢が高いほど 5 点未満の者の割合は小さくなることも共通である。

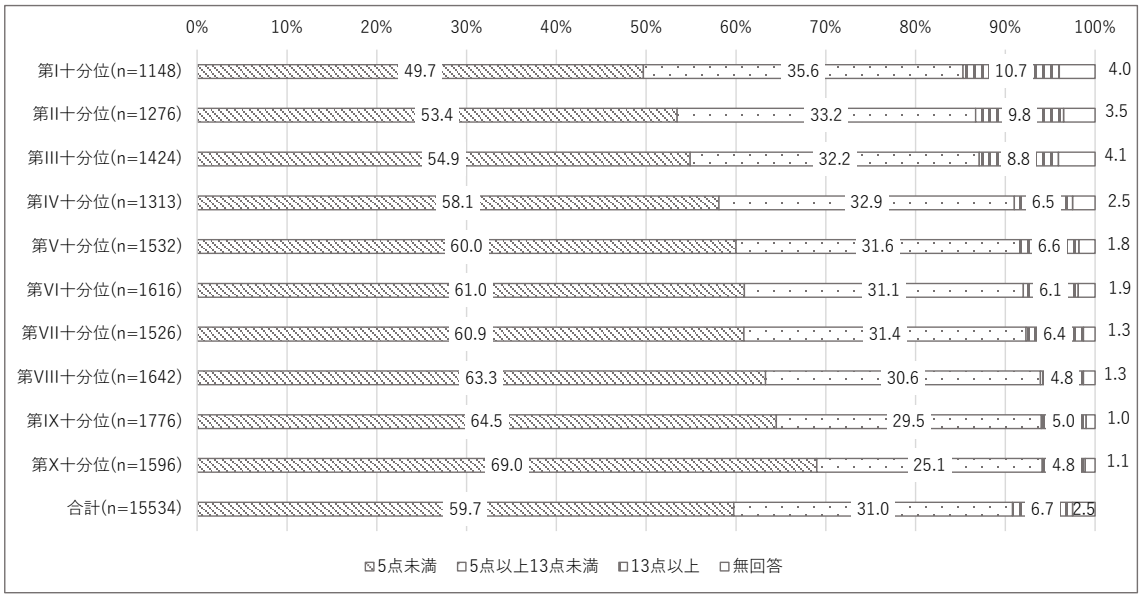
図表 XV-18　年齢階級別こころの健康状態別の人数割合（％；女性）



注）個人票により集計している。分母に無回答を含む。

等価可処分所得階級別にこころの健康状態を見たのが図表 XV-19 である。等価可処分所得が最も低い第Ⅰ十分位において 5 点未満の者の割合が最も小さく、49.7%であった。所得階級が高くなるほど 5 点未満の者の割合は大きくなり、所得第Ⅹ十分位においては 69.0%となっていた。5 点以上 13 点未満者の割合は第Ⅰ十分位：35.6%、第Ⅹ十分位：25.1%、13 点以上の者は第Ⅰ十分位：10.7%、第Ⅹ十分位：4.8%とそれぞれ所得が高いほど割合が小さくなっていた。

図表 XV-19　等価可処分所得階級別こころの健康状態別の人数割合（%）



注）世帯票及び個人票により集計している。分母に無回答を含む。合計に世帯所得不明の者を含むが、世帯票情報が利用可能でない者を含まない。